

◆ 目次

- 1 九州運輸局ホームページアップ情報（6月19日～6月25日掲載分）
 - ・報道発表
 - ・各種情報
 - ・各種手続き
- 2 現場レポート
 - ・九州のクルーズ振興に向けて本年度の事業計画を承認
～平成26年度九州クルーズ振興協議会総会を開催～
 - ・「海の子育成プロジェクト事業」
～君たちが見たあの船は、沖縄与那国の海へ～
- 3 お知らせ
 - ・グリーン経営推進講習会開催情報
- 4 イベント情報

1 九州運輸局ホームページアップ情報

（6月19日～6月25日掲載分）

----- 報道発表 -----

◆大分地域造船技術センターで修了式 ～ 若き造船マン14名の旅立ち ～

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press2014-0623-senpaku.pdf>

◆夏季の輸送等に関する安全総点検を実施します！ ～旅客船の安全対策の徹底を～

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press2014-0623-kaiambu.pdf>

----- 各種情報 -----

◆九州のうんゆ（平成26年6月20日公表分追加）

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/kyushuunyu/pdf/26.6.pdf>

《入札・契約情報》

◆物品・役務入札公示

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/list.html#BUPPIN_CHOTATSU

◆企画競争結果の公表

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/list.html#KIKAKU_KEKKA

《行政処分状況》

◆個別の事業者に対する行政処分等の状況はこちら

（一般乗合旅客 26年5月分追加）

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/jigyousya/noriai/niriai26.htm>

（一般貸切旅客 26年5月分追加）

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/jigyousya/kasikiri/kasikiri26.htm>

（一般乗用旅客 26年5月分追加）

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/jigyousya/jyouyou/jyouyou26.htm>

（一般貨物 26年5月分追加）

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/jigyousya/KAMOTU/kamotu26.htm>

(一般貨物(過積載) 26年5月分追加)

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/jigyousya/KAMOTU/kasekisai26.htm>

----- 各種手続き -----

《海技試験制度・合格発表》

◆過去の合格者(2月分を平成26年2月に更新)

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/kaigisiken/body2.htm>

----- 2 現場レポート -----

◆九州のクルーズ振興に向けて本年度の事業計画を承認

～平成26年度九州クルーズ振興協議会総会を開催～

九州クルーズ振興協議会(会長:田中浩二 JR九州相談役)は、去る6月18日、約60名の会員の参加を得て、平成26年度の総会を開催し、平成25年度の事業報告を了承するとともに、平成26年度の事業計画を承認しました。

冒頭、田中会長から「昨年は日中関係の悪化などからクルーズ船の九州寄港が半減したが、九州が一体となってクルーズ船誘致などに取り組むことが重要であり、今後、プロモーション活動などに積極的に取り組みたい。」との挨拶があり、続いて、九州運輸局久保田次長から、「最近ではテレビなどでクルーズ船が登場することが増えてクルーズ旅行への関心が高まっている。クルーズ人口を増やす積極的な取り組みが重要である。」との挨拶がありました。

平成25年度事業報告では、セミナーや船内見学会の開催、各種イベントへの協賛・後援などのほか、今年2月に協議会ホームページを開設し、現在、各会員に協力を求め、コンテンツの充実を図りつつあることが報告されました。

平成26年度事業計画では、このホームページの充実に努め、九州の魅力や情報をトータルに発信するツールとして活用することのほか、セミナー・船内見学会の開催、クルーズ・コンベンションへの出展等に取り組むこと、また当協議会会員でもある日韓定期航路事業者の利用促進に向けたPR活動なども行う予定で、本総会で承認いただいた事業計画に沿って、九州のクルーズ振興に取り組んでいくこととしています。

なお、総会後には、例年情報交換を行っており、今年は、郵船クルーズ(株)運航部部長代理 村山公崇 様から「寄港地オペレーションについて」と題した報告をいただいたほか、国土交通省海事局外航課内藤係長、九州地方整備局港湾空港部港湾物流企画室的野課長補佐からも各報告が行われました。

※総会の模様は下記URLからどうぞ。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_267_1.pdf

九州クルーズ振興協議会HPはこちら

<http://www.kyushu-cruise.com/>

【九州クルーズ振興協議会事務局】

◆「海の子育成プロジェクト事業」

～君たちが見たあの船は、沖縄 与那国の海へ～

熊本運輸支局三角庁舎では、「海の子育成プロジェクト事業」の一環として、小・中学生を対象に海事教室（海事産業見学会）を実施しており、今年度は5回実施の予定のうち、さっそく6月中に開催した内容をご紹介します。

開催した6月19日は、梅雨期の真っ只中で台風7号の影響が心配されましたが、なんのその、薄日が差す蒸し暑い中での開催となり、宇城市立豊川小学校4年生児童34名と先生4名を大型バスで「船外機製作工場」、「倉庫業（サイロ）」、「造船所」の見学へ連れ立ちました。

まず、船外機製作会社の「ヤマハ熊本プロダクツ」では、陳列された大小様々な船外機が見学者一行をお出迎えし、担当者からの会社概要では、「当社の製品は優れており世界中で売れている。今、ワールドカップサッカー開催地のブラジルでも活躍している。当社の技術スタッフは修理依頼があれば世界中を飛び回る。」と映像を交えた説明があり、子供達から、「エンジンはどのくらい使えるのか。」「なぜ、工場内では写真は禁止なの。」という小学4年生らしからぬ質問も飛び出し、先生や担当者は感心することしきりでした。

次に、倉庫会社のパシフィックグレーンセンターに見学先を移し、同構内から岸壁に伸びるベルトコンベアの先に長さ230m、8万トンの大型貨物船が接岸しておりアメリカからのトウモロコシを荷揚げしている最中でした。ここ2日間の降雨のため貨物ハッチが開けられず荷揚げがストップしていたため、格好の光景を目の当たりにすることができました。また、構内にそびえる高さ40mのサイロの最上階までエレベーターで上がり、八代港の眺望に子供達はいろんな歓喜の声を飛び交わしていました。ここでも子供達から、「1年間に貨物船は何隻入港するの。」「どうやって船の中にブルドーザーを入れるか。」など細かな質問が担当者に投げかけられました。

最後は、造船会社の熊本ドックでは、構内を社長自ら先導して頂き、岸壁に係留されたひとときわ白い船の前で、船名は「フェリーよなくに」と言い、6月末には造船所から遠く沖縄県八重山郡与那国町に引渡しされ、その地の人や車を運ぶのに活躍すると説明があり、事務所棟では、そのフェリーの進水式の華やかな映像を見せて頂きました。

ここでも子供達は、「造船で一番大変なところは何。」「社長はなんで造船の仕事に就いたの。」という大人びた質問に、「良い船を造るには、着手前に発注者や設計者や現場担当者との話し合いが最も大事。」「造船は、先々代から継がれてきた仕事で、造船所は遊び場だった。」など子供達と社長のやりとりが弾んで愉快的な雰囲気に包まれました。

帰りのバス内で子供達に見学会全体の印象を尋ねたところ、「今日は八代の工場で海の勉強をたくさんして楽しかった。」「じいちゃんが船に乗っていたから自分も船に乗りたい。」などの感想があったので、海の仕事に興味を持てたのではないかという感触を得ました。

毎回、僅かな時間の海事教室ですが、将来、一人でも海に係わる仕事に就いてもら

えたらと祈念している次第です。今回ご協力いただいたヤマハ熊本プロダクツ株式会社、パシフィックグリーンセンター株式会社八代支店、熊本ドック株式会社のスタッフには、子供達が分かり易い説明をされたり、印象が残るよう映像を交える等多くの工夫がされ、また、日本中小型造船工業会にも何かとご協力を頂きました。改めて皆様に衷心より感謝致すところであります。

今後とも、海事教室は、関係各位のご協力を頂きながら、多くの子供達に海事産業の大事さ・大切さを伝えていきたいと考えております。

※海事教室の様子は下記URLからどうぞ。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_267_2.pdf

【熊本運輸支局三角庁舎】

3 お知らせ

◆グリーン経営推進講習会開催情報（再掲）

九州運輸局では、グリーン経営の普及・推進を図るため、平成26年8月6日～7日にグリーン経営推進講習会を開催します。

グリーン経営とは、グリーン経営推進マニュアルに基づいて一定レベル以上の取り組みを行っている事業者に対して、認証・登録を行うもので、同マニュアルに基づく事業者の環境改善の努力を客観的に証明することにより、取組意欲を高め、企業の社会的評価の向上を図るとともに、業界における環境負荷の低減につなげていくものです。

また、環境負荷の低減だけでなく、燃費向上や交通事故、車両故障の削減等にも効果があることも、グリーン経営の取り組み事例から確認されています。

今回は、次の場所で開催します。

- ・トラック事業：鹿児島市（H26.8.6）
- ・バス、タクシー事業：鹿児島市（H26.8.7）

詳しくは、下記URLに掲載しています。ご参加お待ちしております。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/file001_022/2014-0523-kankyo.htm

【交通環境部 環境課】

4 イベント情報

◆由布川峡谷まつり

日時：7月13日（日）

場所：大分県別府市 由布川峡谷

概要：由布川峡谷は、約15mから60mの高さの切り立った断崖の溪谷が、別府市と由布市にまたがって約12kmに渡って続いています。岩肌を40条以上あるといわれる細い滝筋が流れ落ちる様は、“東洋のチロル”と呼ばれる程だそうです。

◆飯塚山笠

日時：【追い山】 7月15日（火）

17：00 出陣式イイツカコスモスコモン前広場

18：50 スタート：囊祖八幡宮下6分間隔で各流れスタート

（吉原町～御幸町～東町～昭和通り～西町ゴール）

場所：福岡県飯塚市

概要：飯塚山笠は、享保年間に始まったと言われており、復活40年以上の歴史があります。「追い山」の日には、約3千人もの男衆が水法被に身を包みます。沿道からの勢い水を全身に浴びながら街中を疾走する姿は、感動と一時の清涼を与えるはず！

//////// 編集部より //

最近、「危機管理」という活字をニュースや新聞で見ることが多くなりました。ニュースなどでは、対象となった事柄に関わった人々の危機管理意識に話が及ぶことが多いように思います。

「たいしたことにはならないだろう。」という考えは、往々にしてとんでもない結末が待っているとのこと。このような考えが頭を横切ったときは要注意のようです。

いつも九州運輸局メールマガジンをご覧ください誠にありがとうございます。編集部では、運輸と観光行政に関する取組や話題、イベントの案内、地域の情報等、本メールマガジンへの掲載記事を広く募集しています。お気軽にご投稿ください。

//

■本メールマガジンのバックナンバー閲覧はこちらから

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/backnumber-top.htm

■本メールマガジンの配信中止やメールアドレスの変更などはこちらから

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/kouhou_mail.html

■九州運輸局メールマガジン編集部（九州運輸局総務部内）

mail: mm-kyushu@gst.mlit.go.jp

Tel : 092-472-2312 Fax : 092-471-7192
